



産学・地域連携推進機構

知財部門ニュース

2009年2月1日
(23号) [通番52号]
発行：鳥取大学
産学・地域連携推進機構
編集：知的財産管理運用部門
TEL/0857-31-6000(内2765)

目次

2月の特許相談会	1
紹介します！シリーズ第9回 - 村上耕一 -	2
Q & A 「中国地域産学官連携コンソーシアム」について	3~4

2月の特許相談会

今月は鳥取・米子地区で各1回開催されます。相談をご希望の方は予約をお願いします。

【鳥取地区】相談員：滝本智之弁理士（電機・機械関係他）

日時：2月12日（木）13：30より

場所：産学・地域連携推進機構 研修室

【米子地区】相談員：富田憲史弁理士（医獣・バイオ関係他）

日時：2月13日（金）13：30より

場所：医学部 学務・研究課 第1会議室

※ 3月の特許相談会(鳥取地区のみ) 富田弁理士 3/12(木)、滝本弁理士 3/11(水)

特許と技術契約のことは 知的財産管理運用部門へ

特許に関する相談は、随時受け付けています。
希望される場合は事前に連絡をお願いします。

相談員：佐々木茂雄 知的財産管理運用部門長
清水克彦 産官学連携プロジェクト研究員
山岸大輔 NEDO FiP- (コーディネーター)

場所：産学・地域連携推進機構 2F 知的財産管理運用部門
電話：0857-31-6000(直通) (内線2765)
FAX：0857-31-5474(専用)

メールアドレス：
知財部門メーリングリスト / chiteki@adm.tottori-u.ac.jp
産学・地域連携推進機構 HP：
URL / http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/



今月は「モクレン(木蓮)」です。ツクシを探し疲れて空を見上げたとき、ご褒美のような景色が飛び込んできました。撮影1時間後には天気がぐずれ、雨から雪に変わりました。学内のとある通路脇にて青空を惜しみながら撮影(Y.Y)

紹介します！ シリーズ第9回 - 村上耕一 -

今年度は5月から知的財産管理運用部門に協力していただいている学外所属職員等をシリーズでご紹介しています。第9回目の今月は「鳥取大学知的財産活用連携会議」(平成20年11月発足)に(財)鳥取県知的所有権センター代表の委員として参画されている特許情報活用支援アドバイザー 村上耕一氏です。

いつも知的財産管理部門には暖かくご指導いただいております。なにか記事をとということでしたが、経歴も特筆するものはなく、現在の私は趣味らしいものを持っていないので、本についての挿話に一席お付き合いいただきたいと存じます。



村上耕一氏

【子供の頃の思い出】



物心ついた頃、近所の子供が漫画雑誌を読んでいるのが無性にうらやましかった。本を買ってもらえないわけでもなかったが、親の背中に「本は貴重な財産」と書いてあったから、漫画雑誌を買ってもらう勇気がなかった。確か小学校高学年のときのクリスマスプレゼントだったと思うが、初めて漫画本を手にした。最近の本に例えると、月刊少年Z Zという程度の分厚い本だった。すごく嬉しくて持ち続け、次号が発行されているのも気がつかないことを覚えている。

中学のとき、通学列車の待ち時間に偶然にであった父が、好きな本でも買えとって小遣いをくれた。本屋で文庫本を初めて手にした。それは島田一男の事件小説だった。以後、島田一男の本を探しては文庫本を少しずつ集め、ついでに肩肘の張らない本も増えていった。島田一男の本は、その後大学の知人に、そのコレクションの8割がたを譲ってしまった。

【本と仕事】

社会人になってしばらくした頃、事務系の者は自社で開発されている技術を知らなすぎると、土曜日に技術者を呼んで勉強会が始まった。あるとき私の親しい技術主任が講師になって、LEDの発光原理を素人目にも判りやすく説明した。講演が終わって二人きりになったとき、彼はいった「君は何年目だっけ？若いうちは給料の1割相当は本を読んでおきなさい」乗せられやすい私は本屋に向かった。

その当時は1000円を越す本はあまりなかったが、特許の本は5千円を越すものが多かった。それを取り合えず数冊手に入れて読み始めたが、何ページも読まないうちに翌月になった。2ヶ月もたとうとしたとき、毎月何千円の本を買っても無駄だと悟った。そこで定期刊行物をとることにした。電気回路、半導体、法律、特許、精神科学などなど、分野ごとに2冊づつを選んだ。給料の1割には届かなかったが手取りの1割には近づいた。分厚い解説書を読むよりはるかに読みやすかったが、気を緩めると机の上は未読の本で一杯になり、やがて畳みの上に崩れていった。

【現在の心境】

こここのところ私の愛読書は、月に2回発行のビッグコミックである。買うとまず全体を斜めに見て、一旦積み上げる。時間を見て古いものを引っ張り出して、興味ある漫画だけを読み直して廃棄する。私としては昔からしみついた「本は財産」と廃棄が必要な「現実」を折衷した対処と思うが、これを聞いた友人はなぜか笑う。

特許情報ADとしては県内の知財相談に耳を傾ける。企業にいたときは電気や物性など想定内のテーマが多かったが、農林水産その他本当に色々な分野のお話がある。興味があった分野も、名前自体はじめて耳にする分野でも、改めてイチからの情報収集をすることになる。また、産業財産権法はあまりにも頻りに改正がなされ法令集が間に合わない。いまや本をめくるよりネットが便利で新鮮だ。一方でコンクリート床の上にそそり立つラック群からすらあふれだした本を前に、呆然と佇む。

ご多忙中、投稿と写真をありがとうございました。村上氏は「知的財産『一口メモ』」(鳥取知的財産ポータルサイト内に開設)で、いつも親しみやすい内容で解説されていますが、このような膨大な知識量に裏付けされているのですね。今後ともよろしくお願い致します。

鳥取県知的財産ポータルサイト

トップページURL：
<http://www.tottorichizai.com/>

Q & A : 「中国地区産学官連携コンソーシアム」について

Q : 昨年の暮れに「中国地域産学官連携コンソーシアム」の新聞記事が載りましたが、その内容について教えて下さい。

A : 報道された新聞記事は、既に「知財部門ニュース 16号(以下「ニュース」と記載。2008年7月発行)」に記載した文部科学省の「産学官連携戦略展開事業」に採択された内容と基本的には同じですが、その後の具体的な活動が進展と併せて、今回の新聞発表となった訳です。

Q : 確かに前出の「ニュース」では、「産学官連携戦略展開事業」に採択されたことを中心に記載されていましたが、今回は本事業の目的や具体的活動等の内容について、詳しく教えて下さい。

A : わかりました。「中国地域産学官連携コンソーシアム」事業は、次のような内容になっています。

【目的】

中国地域の国公立大学・高等専門学校等の連携により優れた知的リソースを広域的に集積し、活用することにより地域企業と地域大学等の連携を進める一元的体制を新たに構築し、大学等を中核とした地域の内発的イノベーションの創出による地域生産性向上を図る。

【具体的内容】

1) 域内大学等の連携により知的財産を含む優れた知的リソースを広域的に集積すること

2) これらの活用を図るために域内の企業に向けたプロモーション活動を推進すること

【目的実現の手段】

1) 本コンソーシアムの中核機能を担う産学官連携プロデューサーを3名配置
(本学には1名、清水克彦プロデューサーを配置：
「ニュース19号(2008年10月発行で紹介)」)

2) イノベーション創出展開を行う**産学官連携事業**と、本コンソーシアムの機能を発展させるための内部**人材育成事業**を行う。

【組織の構成(予定)】

代表機関：岡山大学、鳥取大学
正会員：中国地域国公立大学、高専等
(国立5大学が各県幹事校、
1月31日現在16校)

特別会員：中国地域官公及び自治体・
関係団体

企業会員：中国地域中小企業が中心

* 補足：特別会員として、中国地域や各県の官公庁及び産業支援団体殿のご参加をいただき産学官連携を強め、地域全体の生産性を高めていくことといたしております。

Q : 中国地域5県での広域活動を効率良く推進するためには、密接な連携を取るための工夫・手段が必要と思われませんが、その対応策はどのようなのでしょうか。

A : 本コンソーシアム事業の運用形態の全体像(次頁参照)を示します。

その中で、特に各拠点の広域分散を補完するために、次の2つのネットワークツールを縦横に活用します。

WEB マッチングシステム「CPAS-Net」

大学シーズと企業ニーズを登録し、企業と大学が情報を共有する。
プロデューサー、コーディネーターが活用する。

WEB テレビ会議システム

遠隔地の会員同士の効率よいコミュニケーション手段として活用する。
プロデューサー、コーディネーターを繋ぎ、情報を共有する。

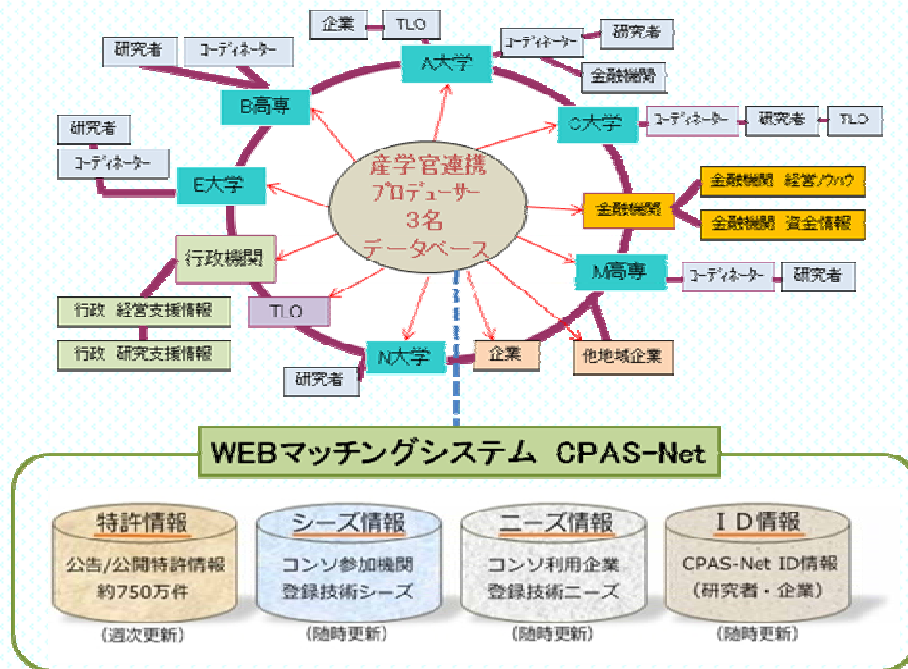
WEB マッチングシステム「CPAS-Net」には正会員である中国地域の大学等が保有する教員の研究成果=技術シーズおよび研究者情報とともに、公開特許情報が掲載され、その更新が頻繁に行われます。コンソーシアム会員は「CPAS-Net」からキーワード検索によりさまざまな技術情報を得ることができます。

産学官連携プロデューサーは検索補助、さらに詳細な情報の収集やマッチングの設定をはじめ、コンソーシアム事業に関わるあらゆる連携活動においてきめ細かなサービスを提供します。新たな研究シーズのご提供があれば、教員の皆様のところへ伺い、面談させていただきます。

技術情報に関する問い合わせ、マッチング、その他コンソーシアムに関わる内容であればWEBテレビ会議システムを利用してプロデューサーやシーズ開発者とface to faceで意見交換をすることができます。会員はこれらネットワークツール「CPAS-Net」とWEBテレビ会議システム、プロデューサーのサービスを無料で利用することができます。

これらネットワークツールとプロデューサーを活用することにより、正会員から企業会員への技術移転や両者の共同研究等の契約締結に進展することが期待されます。

中国地域産学官連携コンソーシアムの運用形態



◆ 企業ニーズと大学シーズの自由な出会いの場を提供

Q：このコンソーシアム事業には、中国地域5県から多くの公私立・高専も参加するとのことですが、それらの大学等においては、特許使用許諾、ノウハウ提供、技術指導等の多様な技術移転や共同研究等の形態が発生し、それらの契約締結に対応しなければならないことが予想されます。その様な場合への支援はどうなっているのでしょうか。

A：上記の業務スキルについても、契約書雛形の準備や事例説明等についてWEB会議を活用して実施することにより、当該連携大学・高専のスキルのレベルアップ支援を継続的に実施していく予定です。勿論、本学においては、産学・地域連携推進機構および研究・国際協力部が本学教員に対する支援は今までと同様に行っていく所存です。

Q：なるほど。それでは、本学の教員にとっても、このコンソーシアムを大いに活用する価値があると言うことですね。

A：そのとおりです。鳥取大学においては、研究成果の活用を推進するため、この事業を通して産学官連携戦略を効率的に展開することとしております。教員の皆様には、本事業にご理解をいただき、大学の研究者情報、シーズ情報の提供と更新、ならびにWEBマッチングシステムおよび産学官連携プロデューサーを通じて研究成果のさらなる活用をお願いする次第です。

なお、本コンソーシアムに関して、ホームページ (<http://sangaku-cons.net>) は 2009年1月6日に、WEBマッチングシステム「CPAS-Net」 (<http://www.sangakukan.net/chugoku/>) は 2009年1月15日に公開しております。